

a 学校教育目標	「自ら伸びる とともに伸びる 子どもの育成」	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 【ビジョン】(自校の将来像)	自分を愛し、夢を語る児童の育成 小中一貫教育で、15の春に【幸崎思考力】を発揮し自律的に学ぶ子どもを育成する学校。そして、保護者・地域に信頼される学校。
----------	------------------------	----------------------	----------------------------------	---

評価計画						自己評価					改善方策	学校関係者評価		
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策		f 評価項目・指標	g目標値	10月	2月	達成度	評価	k結果と課題の分析	n改善方策	mコメント		
						h達成値	h達成値							
確かな学力	○【幸崎思考力】を発揮し自律的に学ぶ子どもの育成【NRT偏差値平均 55以上】	教務・研究部	◎幸崎思考力を育む授業改善による、学力の向上 【学期末テスト学年平均85点以上】	【授業改善】 ①児童が自分の考えを発表できる親和性の高い学習集団づくり ②ファシリテーター力の向上に向けた教職員研修 ③学んだことを接続詞を用いて80字以内で書くR80の充実 ④STB(幸崎トレジャーBOX→獲得した知識)を掲示したり、自分に合った思考の仕方を選択できる学習環境	単元末テスト	平均得点率85%以上	86%	101	A	1学期単元末テスト結果 国語科87点、算数科85点 「学習集団アンケート(9月)」肯定的回答85% 〈成果〉 R80の充実による思考をまとめる力の向上 教職員でR80について研修の実施 〈課題〉 児童が問いをもち、深め合うための親和性の高い集団づくり ファシリテーター力のさらなる向上	【授業改善】 ①集団づくり研修の充実 ②月2回ファシリテート研修 ③R80による児童の論理力向上 ④獲得させたい知識を明確にしたSTB(幸崎トレジャーBOX)の活用	○		・児童のR80を読ませてもらった。1年生から取り組めることに驚いた今後にも役立つと思う。 ・授業一覽で、先生方が目指すR80を示しておられ、授業のねらいがずれることなく、有効な手立ても講じることができるのだと思う。
			◎ICTの活用【プレゼン能力の向上・タイピング検定・情報モラル教育】	【個別指導の充実】 ①全学級で支援が必要な児童に、複数対応による補充学習(支援が必要な児童には四則計算の徹底を重視) ②思考・判断・表現力向上に向けて、幸崎検定テストを実施 ③認知機能強化トレーニング(コグトレ)	児童アンケート	肯定的評価80%以上	85%	106		モジュールタイムにおいて、活用型問題の実施 個別の支援が必要な児童の実態を把握 〈成果〉 1学期単元末テスト60%以下の児童に対する個別指導・きめ細やかな支援 コグトレタイムによる認知機能の向上 〈課題〉 特に論理的に考える力、思考・判断・表現力向上	【モジュールタイムの充実】 ①組織的な個別支援 ②活用型プリントの継続的な実施 ③コグトレタイムの継続	○		・発達段階に応じて4年生以上は、グループディスカッションを行いながら学習を進めていた。社会に出てからも意見を言う機会はあるので、良いと思う。 ・ICTの活用は、授業の進捗状況がよくわかってよかった。
			◎ICTの活用【プレゼン能力の向上・タイピング検定・情報モラル教育】	【ルールを守り活用できる児童】 ①育成すべき能力を発達段階に応じて具体的な子どもの姿で設定 ②タイピング練習で情報活用能力の基礎力の向上 ③情報モラル教育の充実	マイプレゼンの実施	年3回以上	100%	100		全学級1～2回スライド等のプレゼンテーションソフトを使った発表を実施 〈成果〉 研修による教職員のICTの活用意欲の向上 ICTの活用場面の増加 〈課題〉 情報モラル教育の実施 タイピング練習や家庭学習での活用の時間の設定等を通した情報活用能力の向上	【ICT活用能力の向上】 ①タイピング練習の継続 ②情報モラル教育の実施	○		
豊かな心	○親和性の高い集団づくり 【HyperQU・全児童学級生活満足群へ】	生徒指導・保健部	◎目標に向けて、仲間と共に考動・協働できる子どもを育てる。 【HyperQU・全児童学級生活満足群へ】	【PDCAサイクルと振り返り】 ①学級チャレンジ……学級目標の設定と評価活動、学級チャレンジと行事を関連付け ③共感的な学び合いを実施し、認め合い感謝する仲間づくり ④特別支援の視点を経営に取り入れ、個に応じた指導を充実	HyperQU・学級生活満足群到達度	HyperQU・学級生活満足群到達度80%以上	65.8%	85	B	ハイパーQUによる、親和性を図る項目においての達成率 全校平均65.8% 児童アンケートによる肯定的評価 95% 〈成果〉 幸崎っ子10の姿と学級チャレンジをリンクさせた各学年の目標設定による集団意識の醸成 児童自らが企画・運営して主体的に取り組んだ縦割り班活動 異学年で交流する取組において親和的な関係性の育成 〈課題〉 HyperQU・学級生活満足群到達度が低い 実態に基づいた課題克服に向けての取組 肯定感をもてるよう取り組んでいくとともに、学級集団作りにも生かしていく。	【学級経営の充実】 ①帰属意識を醸成する取組のさらなる推進 ②集団意識を高める特別活動の充実 ③役割分担を明確にした縦割り班活動	○		・ハイパーQUの結果があまり良くないことが気になる。高学年については、個別に話を聞くなどして、個々の思いを後押しするようなことや担任の先生が1対1で話し相手になるような機会をもってみてはどうか。
			◎縦割り班・異学年を軸とした自治的な学び【自己評価…児童】	【縦割り班・異学年活動】 ①幸崎っ子10の姿の共有化 ②幸崎スポーツフェスティバル・幸崎文化フェスティバル ③児童会や委員会、縦割り班等の自治活動の充実 (縦割り班)縦割り班遠足・清掃(児童会運営)全校朝会、一斉下校 (委員会)縦割りフェスの実施	児童アンケート	児童の肯定的評価80%以上	95%	118				○		
健やかな体	○運動に対する意欲の向上 【個人記録の結果が全員UPする】	生徒指導・保健部	○楽しみながら体を動かすことで体力を向上させる。 【個人記録の結果が90%UP】	【運動に対する児童の意欲向上】 ①縦割り班を生かしたスポーツフェスティバルやリレーの実施 ②外遊びWEEK等の取組 ③視覚的に自分の目標やゴールが見えるカードの作成と評価	個人記録の結果	個別の向上率90%以上	-			楽しみながら体を動かすことで、運動に対する意欲の向上を図った。 〈成果〉 スポーツフェスティバルで楽しみながら体力の向上を図る 体力テストにおける、目標設定カードを作成 結果をレーダーチャートにして個々にフィードバック 次年度に送っていくことをシステム化 〈課題〉 男子では50m走・長座体前屈、女子では、50m走・反復横跳び・シャトルランが全国平均を下回った。	【体力の向上】 ①運動習慣の確立に向けた児童主体の取組 ②目標を明確にした体力テスト(2回目)の実施	○		・全学年でポイントを絞って指導しないといけないのではないかな。運動能力と学力はつながっている。今後もしやすい運動するのではなく、楽しんで運動に取り組んでほしい。
			○コミュニティスクール・小中一貫による教育活動の充実を図り、郷土を愛する心を養う。 【コミュニティスクール】 【小中一貫教育】	○幸崎の強みを生かした探究的な学習を展開し、自分や友達、郷土を愛する心を養う。 【自己評価…児童】 【アンケート評価…保護者】	児童アンケート	自分や友達、学校や地域に対する愛着に関するアンケート項目の肯定的評価80%以上	95%	119	A	創立150周年に向け、CSを活用した教育力の向上 地域資源を活用した地域学習(南山先生、水辺教室、芋の苗植え、七夕まつりなど) 〈成果〉 地域と学校が一緒になった教育活動の企画・実行 「幸崎小150のメッセージ」の取組の立ち上げ 感謝の手紙で、気持ちを視覚化 児童は伝統や歴史自然環境、地域の人々の優しさなどについて良さを実感 〈課題〉 地域の特色などに関する内容は少ない。	【地域学習のさらなる充実と郷土愛の醸成】 ①150のメッセージを受けた今後の目標設定 ②地域とつながる文化フェスティバルの実施	○		・もっと児童と関わる時間があればよいと思う。自然を相手にしていると上手くいかないこともあるが、それも経験である。児童が実感としてとらえるには、長いスパンで教えるというように学年が上がってもつなげていけたらよいのではないかと思う。
	○チーム幸崎として、業務改善を図る。 【時間外勤務時間目標総時数 達成率100%】	総務部	○在校時間を短縮する。 【時間外勤務時間目標総時数 達成率100% (平均値45時間)】	【適材適所の人材配置による業務改善】 ①個性を発揮できる職務に就くことで、一人一人のモチベーションを高め、業務を効率化 ②建設的な雰囲気醸成しチーム力の向上 ③一人一人が生きて働くことができる組織へとさらに成長	時間外勤務時間数	年間平均45時間以内の職員100%	100%	100	A	時間外勤務時間数が45時間以内の職員 100% 〈成果〉 ICTを活用した業務の効率化 定時退校日や退校時刻目標の設定 低・中・高学年部での活動 個性を発揮できる職務に就く 〈課題〉 成績処理期間や行事の前等は勤務時間が長くなる傾向にある	【職員のチーム力の向上とさらなる業務改善】 ①各主任を中心とした部の計画的な運営 ②職員室におけるOJTの活性化 ③業務の可視化による在校時間の短縮 ④終わりを意識したタイムマネジメント	○		